琉球大学学術リポジトリ

米国に於ける遊戯療法と応用行動療法としての音楽プログラム(1)

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
	公開日: 2013-08-14
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: シャイヤステ, 榮子, Shayesteh, Yoko
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/27155

米国に於ける遊戯療法と応用行動療法としての音楽プログラム (1)

シャイヤステ榮子*

The Music Program Based on Play Therapy and Applied Behavioral Therapy in the United States (1)

Yoko SHAYESTEH*

Casa Colina Centers for Rehabilitation
（カーサコリーナ　リハビリテーションセンター病院）

カーサコリーナ　リハビリテーションセンター病院は、ロサンゼルス郊外東へ30分（27mile）ほど行ったボールディ山が遠くに見えるポモナ・バレーのポモナ（Pomona）市にある。ポモナ市は、ヒスパニック・ラテン系の人々が約65％を占めるロサンゼルス郡内で人口第５位の都市である。スパニッシュ風の建物群とフェニックス並木が来訪者を迎えてくれる。

（ボールディ山を背景にした病院正面玄関）

(1)　施設概要

1936年、子ども達のポリオの後遺症治療の為、Frances Eleanor Smith（通称Mother Smith）によってチノ市に創立された「小さな丘の家（Casa Colina）」を意味する治療施設は、1950年代のポリオワクチンの普及によって減少した子ども達の治療の後も診療の枠を広げ、1960年に現在地（Pomona市）に移設され現在に至るまで、一次（急性期）治療後のリハビリテーションを必要とする多くの人々に貢献している私立の総合リハビリテーションセンター病院である。

全米的にも卓越したリハビリ医療を提供しているカーサコリーナ病院の治療は、慢性関節炎、脳卒中や頭部外傷等の中枢神経疾患、脊髄損傷、神経疾患、骨折関節疾患等の整形外科疾患、そして小児疾患など多岐に及んでいる。これらの受け入れは、主に、集中的リハビリを必要とする入院部門、継続的な治療を必要とする維持期治療リハビリの為の外来部門、帰宅・社会復帰へ向けての滞在型・日帰り型リハビリ部門、更に長期治療を必要する人々の長期滞在部門で働く医師200名を含む医療従事者と病院関係者700

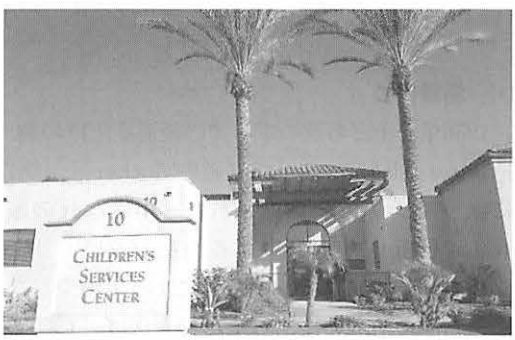
*　琉球大学教育学部音楽教育教室

名余の専門家で行われている。

医療サービスは理学・作業・言語療法に留まらず、Hand Therapy, Wound Care, Wheelchair & Seating Program, やAquatic Therapy, Sport Rehabilitation, Home & Community Programなど様々なニーズに応じている。コーサカリーナリハビリテーションセンター病院の他のリハビリ医療機関との違いは、障がいのある子どもたちのための多様なプログラムにある。

(2) 特長

障がいのある子どもたちの治療プログラムは、Children's Service Center（子どもサービスセンター）で外来診療として実施されている。約500名の子どもたちの利用があり、年間に18,000診療の実績がある。47%が自閉症である。



（写真２）

このChildren's Services Centerを利用する子どもたちは、リージョナル・センターでの診断・評価（Assessment）を経て作成されたIPP（個人別支援計画：Individual Program Plan）に基づいて来院している。０才から15才の子どもたちに、次のような５つの治療プログラムが用意されている。

１）Clinical Program（臨床プログラム）では、IPPに示された計画通りに、作業療法（OT）、理学療法（PT）、そして言語療法（SP）を必要とする子どもたちに個別療法や小集団療法が提供されている。

２）Early Start Program（カルフォルニア州幼児早期教育プログラム）は、1990年に改訂された障がい者教育法（IDEA）で提唱された、障がいを持って生れた３才までの子どもに施される早期教育プログラムである。

３）Specialized Team of Autism Related Therapies Program（自閉症児特別チームプログラム）は、自閉症スペクトラムを呈する子どもたちの為のプログラムで、社会性、感覚運動機能、コミュニケーション能力、そして環境適応能力＆認知機能の向上目的に一対一で施設内にて実施されている

４）Adaptive Learning Program（学習適応プログラム）は、学習障がいの子どもたちのために、通常の学習での問題点を明らかにし、学習上の困難を助けるためのプログラムである。各々の子どもの必要に応じて個人指導や小集団での学習が用意されている。小集団プログラムには、Kid's Crew, GIFT-ADD, Handwriting Workshop, Day Camp、そしてTeen Sceneがほんの一例だが用意されている。

５）After School Activities Program（学童プログラム）は、就学年齢の子どもたちが、他の子どもたちと触れ合い、社会性を培いながら、新しい友達がつくれる学校終了後の楽しいプログラムである。Casa Colina Outdoor Adventures Program（屋外冒険プログラム）は、子どもたちの社会的コミュニケーション能力の発達を助けている。

これらの子どものための治療プログラムは、①州と連邦政府が共同で提供する医療保護保険（Medi-Cal：メディ・キャル）、②カリフォルニア州が脳性麻痺や二分脊椎、外傷による脳障害などの障がい児に対してOTやPTを提供しているカリフォルニア・チルドレンズ・サービス（CCS：California Children's Service）、③自閉症や学習障害などの学校活動に関連した障がいを持つ児童に対する治療を提供する学校区（LEA：ローカル・エジュケーション・エージェンシー）、そして④利用者個人が加入している

健康保険によって大部分の治療費が支払われている。更に、カーサコリーナ財団も子ども達其々に医療費の一部を援助している。従って、自費はほんの少額となる。

(3) 印象

Children's Services Center 内の玄関から入ると、子どもたちが保護者と大療法室（Therapy gymnasium）で行われており、それぞれの治療プログラムの順番を待っている。

3才までの子ども達の治療は午前中で終了する。それぞれの部屋は、子どもが学びの目的を理解し集中出来るようにと TEACCH に基づいた構造化された環境に設定されており（写真3＆4）、室内には、自閉スペクトラム特性の子どもたちに効果のある視覚的指示を多く活用している掲示物がある（写真5）。

カーサコリーナ Children's Services Center では、応用行動分析（Applied Behavior Analysis：ABA）の療育技法をプログラムの中心に据えている。子どもたちは週3回9時から12時まで生活を共にする保護者とプログラムに参加する。保護者は子どもとの関わり方を学び、帰宅後も実践し、効果を上げることが出来る（写真6）。

（写真3）

（写真4）

（写真5）

（写真6）

センター内には、作業療法プログラムの部屋（写真7）と広い屋内外での遊戯スペース（写真8＆9）もあり、子どもたちのニーズに沿ったプログラムが実行できる環境が十分に整っている。

（写真7）

（写真8）

（写真９）

Pasadena Child Development Associates（パサディナ子ども発達総合支援センター）

パサディナ子ども発達総合支援センターは、パサディナ市内にある。パサディナ市はロサンゼス市の北東部に隣接し、カルフォルニア州のサンガブリエル山脈の南部に位置し、避寒地として知られている。パセディナ市は、白人が約55％、そしてヒスパニック・ラテン系の人々が約35％を占め、ロサンゼルス郡内で第7位の人口を有する。

(1) 施設概要

1996年、発達障がい児専門医（Developmental Pediatrician）であるDiane Cullinaneと、親子看護臨床専門看護師（Parent-child Clinical Nurse Specialist）Mimi Winer、両氏によって創立されたパサディナ子ども発達総合支援センター（写真10）は、2008年、非営利社団法人（A Non-profit Corporation）として、０才から17才までの発達や行動に問題がある子どもたちと親と家族のための、診断・評価・カウンセリング・療育・治療サービスを提供する総合支援センターとして再出発した。

（写真10）

パサディナ子ども発達総合支援センターの基本理念は、発達、個性、関係性中心（Developmental, Individual Difference, Relationship-Based Approach：DIR）の三本柱に集約される。即ち、D：子どもたちの情緒と社会性の発達がその他の発達の基礎となる、I：一人一人の子どもたちの固有の気質、感覚、興味・関心は重視すべきである、そして、R：子どもたちは、彼らと関わる全て人々との信頼関係を通して学び・成長する、という共通理解を持つ各専門分野の専門家の集団が協力し合って最善を尽くすことを信念としている。

その基本理念を実行する専門家集団は、発達障がい児専門医と親子看護臨床専門看護師を頂点に、作業療法士＆言語療法士＆音楽療法士、結婚＆家族療法士、心理士、小児発達専門家（Child development Specialist）＆発達期介入専門家（Developmental Interventionists）、行動矯正専門家（Behavior Specialist）、管理栄養士、保育士、そして管理職者を含む総勢65名で構成されている。勿論、このプログラムを必要とする子どもたちの両親もこの専門家集団の一員として共にプログラムに参加する。

(2) 特長

パサディナ子ども発達総合支援センターには、センターの基本理念に沿った専門家集団のよる子どもたちへのセンター独自の治療プログラム、Floortime、が用意されている。

Floortimeは、子どもの素直な感情からくる興味関心に注目すると同時に、子どもの社会的、情緒的、そして知力を伸ばすように子ども自ら挑戦する技法を通して、可能性への挑戦や学びの機会を作り上げる事を中心に据えている。従って、このセンターで実施されているプログラムは全てFloortimeに準ずる。作業療法士や言語療法士、そして音楽療法士も、其々の療法の特性を生かしながら、Floortimeの方法論に基つき、センターの基本理念を達成するためのプログラムを計画し実践している。

センターでは、作業療法・言語療法・音楽療法だけではなく、

1）異分野提携食事指導：Interdisciplinary Feeding Team（0才から12才）
食事指導を要する子どもの特性に合わせて、複数の専門家がチームとなって楽しく前向きに正常な食事へと導いていく。
2）栄養指導：Nutrition Services（0才から12才）
3）体重管理プログラム：Weight Management Program（5才から12才）
4）社会性養成プログラム：Social Skills（2才から12才）
5）10代クラブ：Teen Club（13才から17才）
6）幼児発達プログラム：Infant Development Program（0才から3才）
7）社会性－感性発達介入プログラム：Social－Emotional Developmental Intervention（3才から12才）
8）応用音楽レッスン：Adapted Music Lesson
社会性やコニュニケーション力を構築するための音楽療法ではなく、子どもの演奏技術や知識を高め音楽性を豊かにするための一般的なピアノやギターの個人レッスンである。

0才から18才までの約720名の子どもたちが上記のプログラムを受けている。

(3) 印象

この施設案内をする人の肩書きは“Quality Assurance Specialist and Community Liaison”即ち、「センターの品質保証専門家及び地域連携連絡職」である。

パサディナ子ども発達総合支援センターでは、サービスが必要な全ての子どもたちにプログラムが用意されている。施設見学前の、基本理念、専門家集団、そしてプログラム内容の説明は、商品としてのセンターのプログラムの良さを来訪する人々に知ってもらい、利用者になるように売り込みをする大切な役割を担っている。

建物の壁のいたるところに描かれた動植物画が窓のない無機質センターが温かみのある世界を創り出している（写真11）。

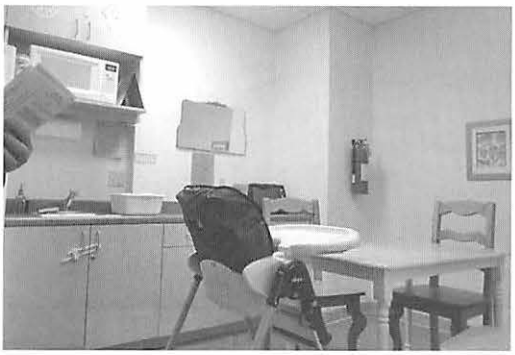
（写真11）

感覚統合治療の広い部屋には、6名の作業療法士が十分に子どもに関われる広さと器機が設置されている（写真12&13）。個別の言語療法室と食事療法室が近くにあり、言語聴覚士が両部屋を行き来できる（写真14&15）。個別の音楽療法室があったが、マラカスやシェイカー等の打楽器や、ギターやピアノが其々の部屋に完備してあり、それらは全て贈呈によるものである。

（写真12）

（写真13）

（写真14）



（写真15）

（写真16）

パサディナ子ども発達総合支援センターの心臓の倉庫のような大部屋には玩具が整然と並べられている。子どもの生活は遊ぶことであり、玩具は遊びを楽しくしてくれる。子ども達は遊びを通して、社会性やコミュニケーション能力や知力を培う事が出来るようになるのである。これこそが、このセンターのプログラムFloortimeが目的とするものである。

療法士は、この玩具の中から各々子どもの興味関心にあったおもちゃを探し、プログラムへ向かう。写真にみられるように、玩具は、大部屋に整然と並べられ、使用後は消毒をする。これらの玩具は、全米玩具学会で、パサディナ子ども発達総合支援センターのプログラムについて講演会をした際、学会に参加していた玩具会社が全て寄贈したものである。パサディナ子ども発達総合支援センターは中国もプログラム進出をしている。

障がい者の教育・福祉先進国のアメリカでは、法律によって守られた障がい者の教育と福祉を受ける権利と、その権利を大いに活用し我が子の為に奮闘する親の姿に象徴される。その奮闘は徒労に終わるのではなく、叶えられるのである。

それが叶えられる根底には、しっかりと障がい者や障がいのある子どもたちに関わり、科学に裏付けられた治療や療育を与えることが出来る専門家がいるからである。だからこそ、パサディナ子ども発達総合支援センターのような外国へと障がい者治療産業を広げる事が可能となるのである。

沖縄でも、このようなプログラムとそれを実践する専門家集団の組織作りとその養成を必要としている。